

第 2 1 0 回東海地区企業動向調査について

2025年4月23日
株式会社 十六総合研究所

十六フィナンシャルグループの株式会社十六総合研究所（代表取締役 佐竹 達比古）は、岐阜県・愛知県の企業に対し「第210回企業動向調査」を実施しましたので、その結果を別紙のとおり公表いたします。

<別紙>第210回東海地区企業動向調査

以 上

【ご照会先：十六フィナンシャルグループ（広報） TEL 058-266-2511】

2025年4月23日

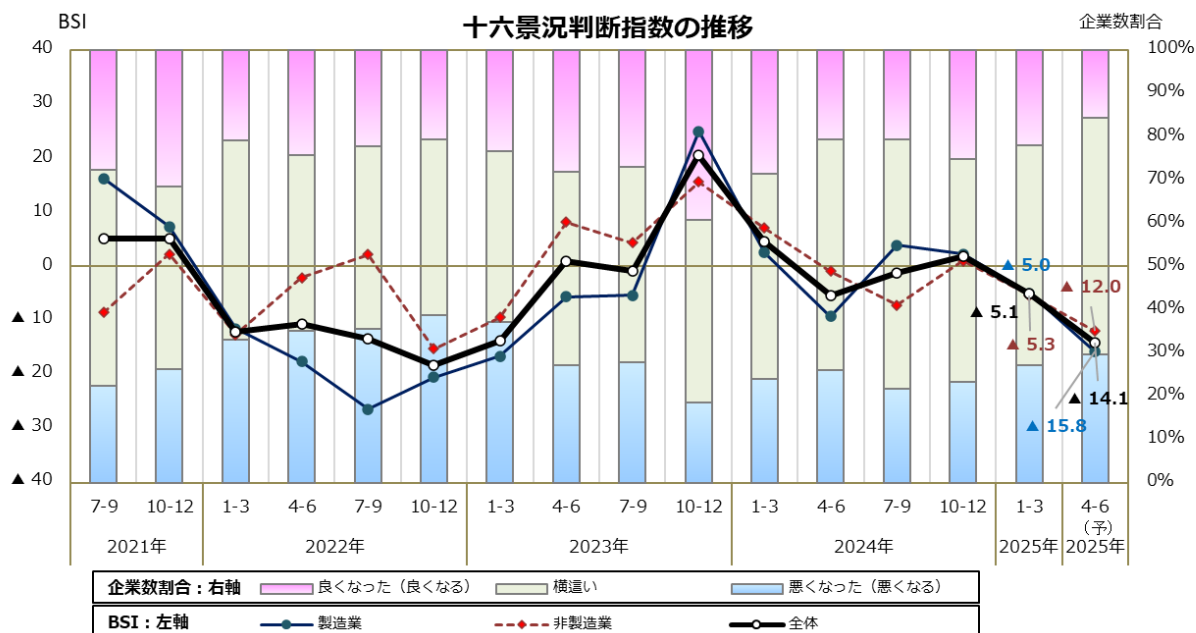
第210回 東海地区企業動向調査

『2025年1～3月期 十六景況判断指数 調査報告』

- ① 十六景況判断指数は▲5.1（前期比 6.9 点減）と3期ぶりに低下しマイナスとなった。来期は▲14.1（今期比 9.0 点減）とさらに低下する見込み。
- ② 経営上の最大の問題点は「仕入商品・原材料高」が28.1%で1位に再浮上した。
- ③ 雇用人員の過不足感 BSI（過剰－不足）は▲43.7（前期比 3.0 点減）と低下。幅広い業種で人手が不足している。

調査要領

1. 調査方法 岐阜県、愛知県の企業に対し、Webと郵送を併用しアンケートを実施
2. 調査時期 2025年3月1日～16日
3. 調査期間 2025年1月～3月期 実績（見込み）
2025年4月～6月期 予想
4. 回答状況 有効回答数 213社（岐阜県、愛知県の企業 600社、有効回答率 35.5%）
5. 本調査の経緯 第1回調査 1966年1月(半期ごと)、1980年6月より四半期ごと



ご 照 会 先
 十六総合研究所 企画事業部
 研究員 藤木 由江
 岐阜県岐阜市神田町 7-12
 TEL 080-3483-8489

* 十六景況判断指数

岐阜県、愛知県内の企業、600社を対象に、自社の業況について、前年同期と比べて「よくなった/よくなる」と回答した割合から「悪くなった/悪くなる」と回答した割合を差し引いて求めた指標

* BSI (Business Survey Index)

各項目につき、前年同期と比べて好転（増加・上昇・容易・過大）と回答した割合から、悪化（減少・低下・困難・不足）と回答した割合を差し引いて求めた指標

1. 今期実績と来期予想

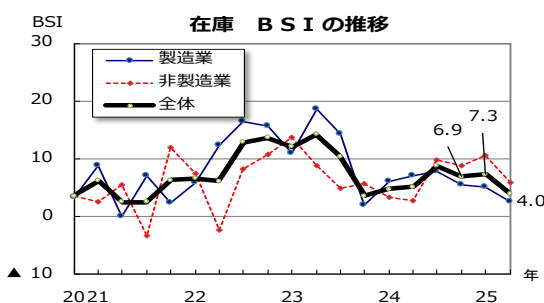
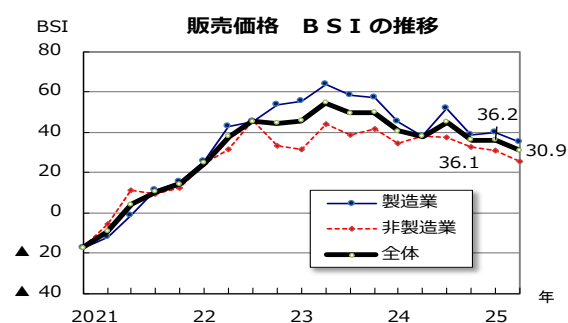
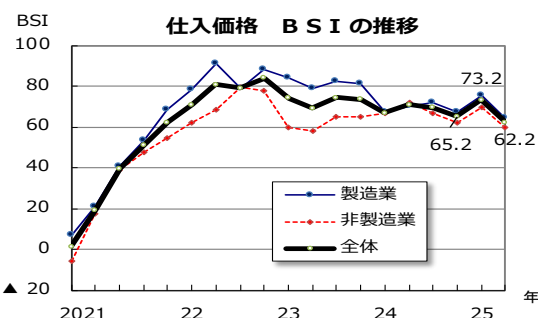
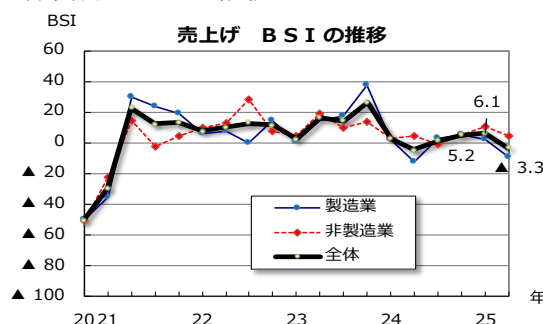
(1) 十六景況判断指数

十六景況判断指数は、▲5.1（前期比 6.9 増減）と3期ぶりに低下し、マイナスとなった。業種別にみると、製造業は▲5.0（同 7.3 増減）、非製造業は▲5.3（同 6.3 増減）といずれも低下した。

来期の十六景況判断指数は、▲14.1（今期比 9.0 増減）とさらに低下する見込みである。業種別にみると、製造業は▲15.8（同 10.8 増減）、非製造業は▲12.0（同 6.7 増減）と特に製造業で大きく低下する見込みである。

製造業、非製造業ともに光熱費、人件費などのコスト高が続くなか、米国の関税政策による先行き不透明感が景況感をさらに押し下げたと考えられる。製造業では資材や機械設備などの高騰に苦慮する声も寄せられた。非製造業においては、インバウンドが好調ではあるものの、人手不足や住宅着工数の減少などを懸念する声が寄せられた。

(2) 各項目の BSI の推移



売上 BSI は 6.1（前期比 0.9 増）とほぼ横ばいで推移し、来期は▲3.3 と大きく低下する見込みである。

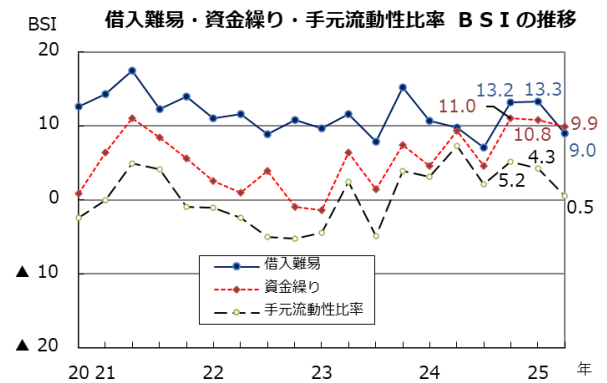
仕入価格 BSI は 73.2（同 8.0 増）と上昇し、来期は 62.2 と大きく低下する見込みである。

販売価格 BSI は 36.2（同 0.1 増）とほぼ同水準で推移し、来期は 30.9 と低下する見込みである。

在庫 BSI は 7.3（同 0.4 増）とほぼ同水準で推移し、来期は 4.0 と低下する見込みである。

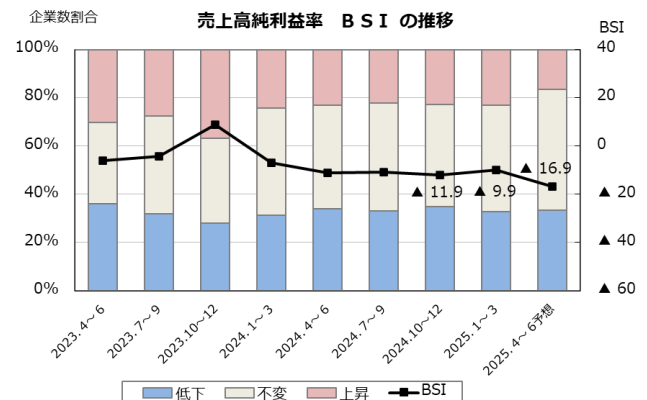
(3) 借入難易・資金繰り・手元流動性比率

今期の借入難易 BSI (容易－困難) は 13.3 (前期比 0.1 増)、資金繰り BSI (楽－苦しい) は 10.8 (同 0.2 増)、手元流動性比率 BSI (上昇－低下) は 4.3 (同 0.9 増) といずれもほぼ横ばいで推移した。来期の借入難易 BSI は 9.0、手元流動性比率 BSI は 0.5 と低下し、資金繰り BSI は 9.9 とほぼ横ばいで推移する見込みである。



(4) 売上高純利益率

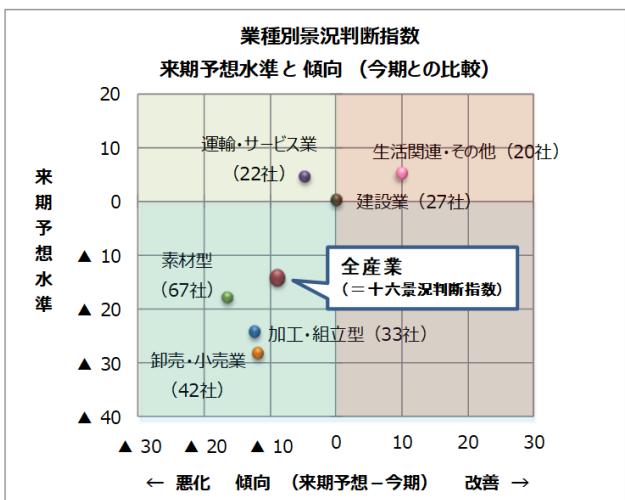
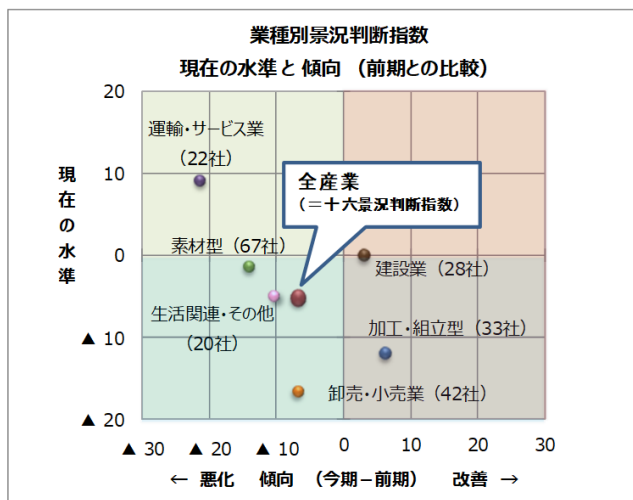
今期の売上高純利益率 BSI は▲9.9 (前期比 2.0 増) とやや上昇した。上昇要因は「売上げ増加」が最も多く 71.4%、2 位は「諸経費節減」で 16.3% だった。低下要因は「売上げ減少」が最も多く 46.4%、次いで「原材料・仕入商品高」が 30.4% だった。来期の BSI は▲16.9 と直近 9 期で最も低くなる見込みである。



2. 業種別の動向

調査対象から鉱業を除いた 20 業種を 6 グループに分け、景況判断指数の水準と傾向を示した。今期は加工・組立型、建設業のグループで BSI (よくな

った－悪くなった) が前期比改善した。来期は生活関連・その他のグループのみ BSI が今期比改善する見込みである。



注) 【製造業の分類】

素材型：木材・木製品、紙・紙加工品、化学工業、窯業・土石製品、鉄鋼・非鉄金属、刃物・金属製品、プラスチック・その他製造業

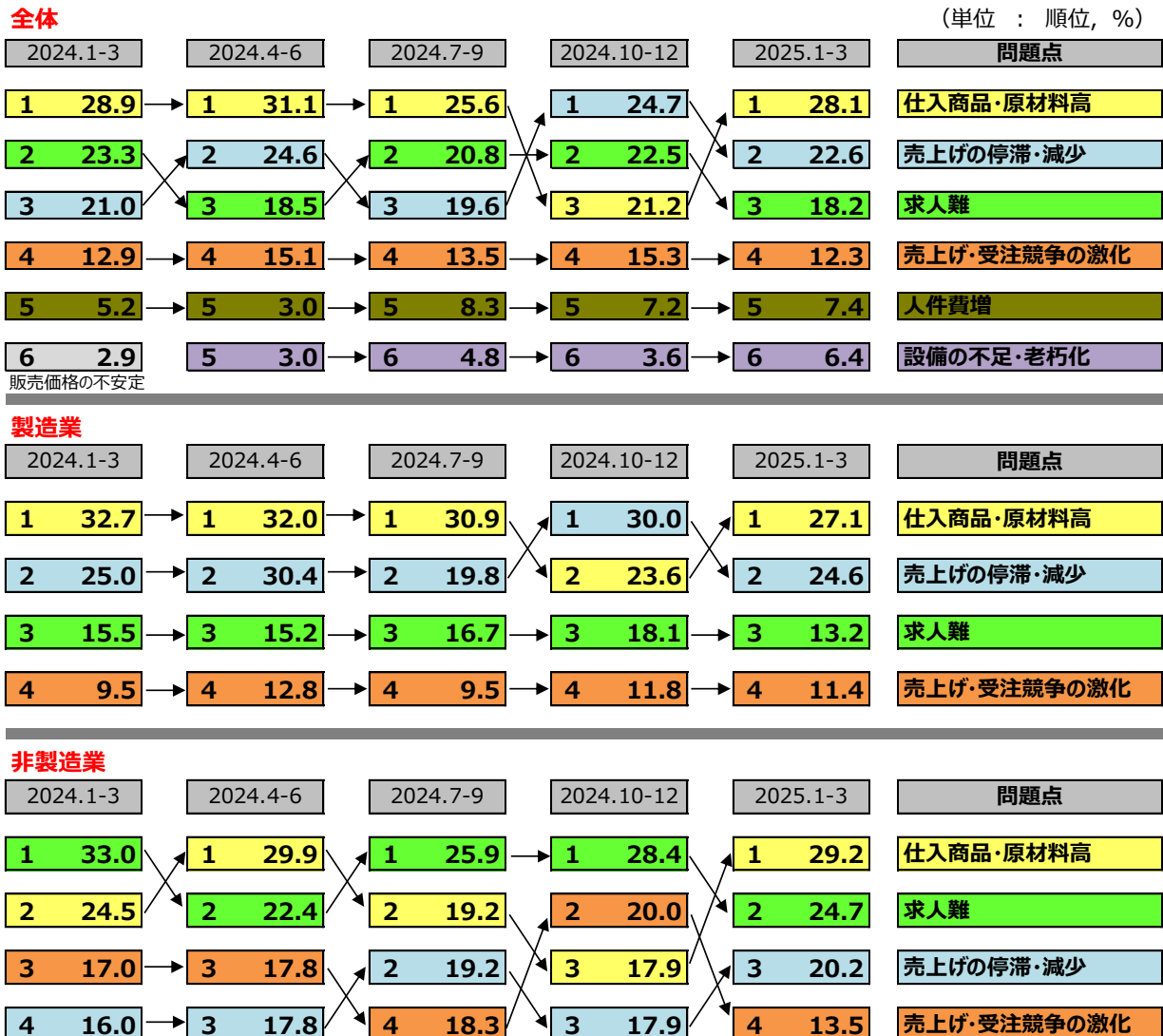
加工・組立型：一般機械器具、電気機械器具、輸送用機械器具

生活関連・その他：食料品、繊維工業、衣類その他繊維製品、家具・装備品、出版・印刷

※「鉱業」は回答企業数が少数であったため、分析の対象外とした。

3. 当面する経営上の最大の問題点

当面する経営上の最大の問題点（単一回答）順位の推移



当面する経営上の最大の問題点を尋ねたところ、前回3位であった「仕入商品・原材料高」が28.1%で1位に再浮上した。「売上げの停滞・減少」が22.6%で2位、「求人難」が18.2%で3位となった。業種別でみると、製造業も「仕入商品・原材料高」が27.1%で1位、「売上げの停滞・減少」が24.6%で2位だった。非製造業は「仕入商品・原材料高」が29.2%で1位、「求人難」が24.7%で2位だった。

自由コメント欄では「仕入価格、エネルギーコスト、人件費が増加し、厳しい経営環境が続いている（サービス業）」、「販売管理費の上昇分に利益が追い

ついていない。しかしニュースで賃上げの話が先行し財源がなくても上げざるを得ない（卸売業）」などコスト高に苦慮する声が寄せられた。

また、「中国の景気が悪く安価で小ロットの仕事でも対応するようになり日本の仕事が流れている（繊維工業）」、「最近のコメの価格、ガソリン代の上昇等、生活密着コストの上昇により、消費者の節約志向の高まりを強く実感している（食料品）」、「住宅着工数の減少にともない業況は非常に厳しい（卸売業）」など海外との競争の激化や国内市場の縮小を懸念する声もあった。

4. 設備投資

設備投資実施状況

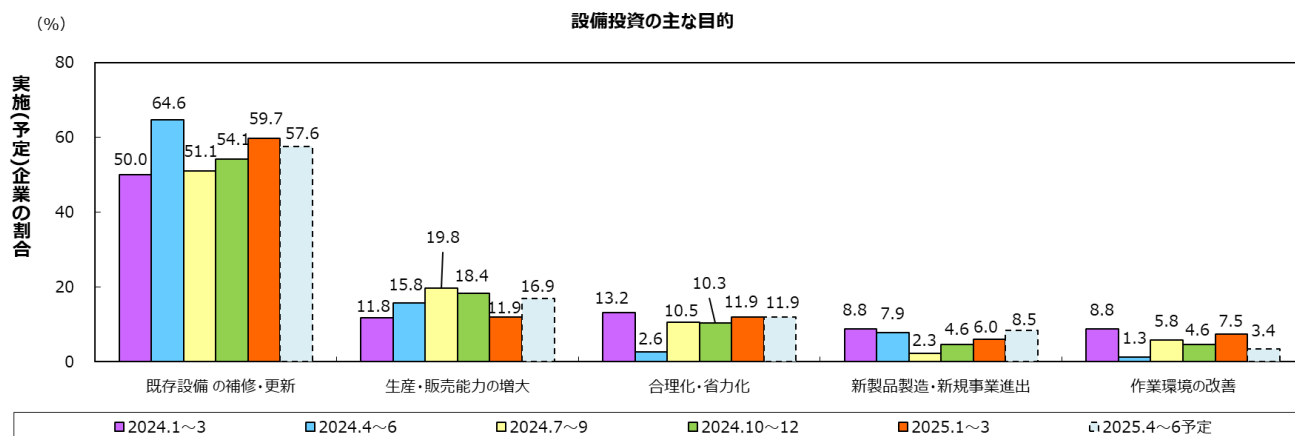
(単位：％，百万円)

			全 体			製 造 業			非 製 造 業		
			実施 企業 割合	投資 総額	1企業 当たり 平均 投資額	実施 企業 割合	投資 総額	1企業 当たり 平均 投資額	実施 企業 割合	投資 総額	1企業 当たり 平均 投資額
2022	10～12	実績	31.5%	8,521	64	34.4%	6,223	84	27.5%	2,298	39
2023	1～3	実績	38.3%	11,271	157	45.8%	6,486	127	27.9%	4,785	228
2023	4～6	実績	33.2%	10,680	148	40.0%	6,871	146	25.5%	3,808	152
2023	7～9	実績	38.1%	15,915	114	46.9%	3,770	47	27.0%	12,145	206
2023	10～12	実績	40.1%	7,581	56	44.9%	3,210	43	34.7%	4,371	72
2024	1～3	実績	31.3%	12,337	190	38.7%	9,380	213	22.4%	2,957	141
2024	4～6	実績	31.5%	6,530	40	35.4%	4,235	47	27.0%	2,294	31
2024	7～9	実績	36.7%	5,165	32	41.4%	4,137	48	31.2%	1,028	14
2024	10～12	実績	38.5%	9,599	113	41.9%	6,325	119	34.0%	3,274	102
2025	1～3	実績	31.9%	4,684	71	34.2%	3,566	89	29.0%	1,118	43
2025	4～6	予定	28.3%	6,912	126	30.8%	5,936	170	25.0%	976	49

今期、設備投資を実施した企業の割合は製造業が34.2%（前期比 7.7 ㊦減）、非製造業が 29.0%（同 5.0 ㊦減）といずれも低下し、全体では 31.9%（同 6.6 ㊦減）となった。

来期、設備投資を予定する企業の割合は製造業が 30.8%（今期比 3.4 ㊦減）、非製造業が 25.0%（同 4.0 ㊦減）といずれも低下し、全体では 28.3%（同

3.6 ㊦減）となる見込みである。「設備投資は機械の購入金額がとて高くなっている（輸送用機械器具）」「売上げ不振にともない、老朽化した工場に投資できる余裕がない（繊維工業）」という声もあり、コストの上昇などから設備投資を控える企業も一定数あると考えられる。



今期の設備投資の主な目的は、1 位が「既存設備の補修・更新」で 59.7%（前期比 5.6 ㊦増）、同率 2 位が 11.9%の「生産・販売能力の増大」(同 6.5 ㊦減)と「合理化・省力化」(同 1.6 ㊦増)で上位 3 項目に変動はなかった。

来期は、引き続き 1 位が「既存設備の補修・更新」で 57.6%（今期比 2.1 ㊦減）、2 位が「生産・販売能力の増大」で 16.9%（同 5.0 ㊦増）、3 位は「合理化・省力化」で 11.9%（同±0.0 ㊦）と生産性向上に資する前向きな設備投資は堅調に推移するとみられる。

5. 雇用

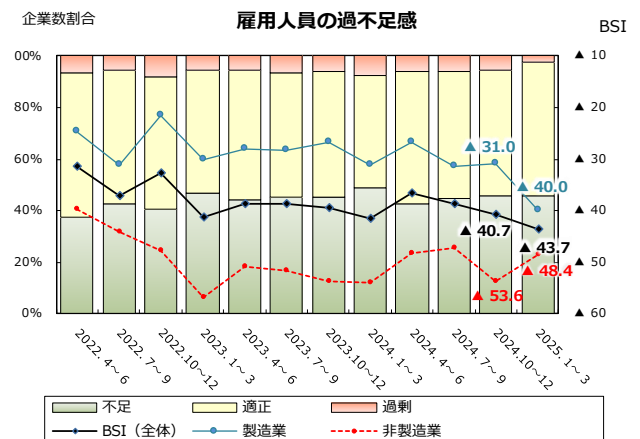
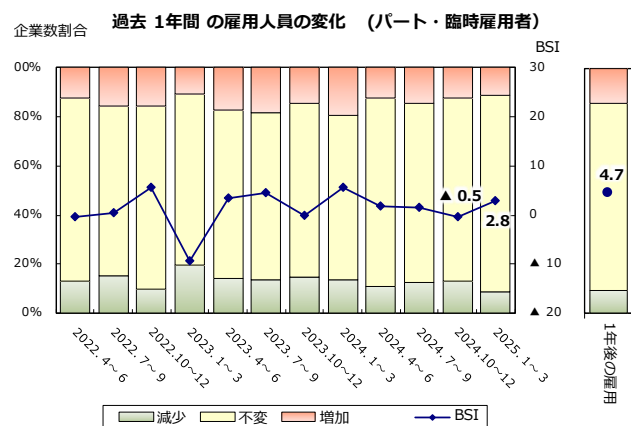
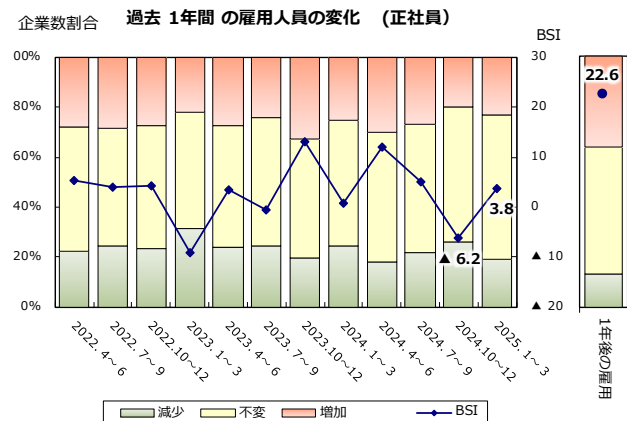
過去1年間の雇用人員の変化 BSI（増加－減少）は、正社員が 3.8（前期比 10.0 増）と大きく上昇し、パート・臨時雇用者も 2.8（同 3.3 増）と増加した。

また、1年後の雇用人員の変化 BSI は、正社員が 22.6、パート・臨時雇用者が 4.7 と、正社員の増加を見込む企業が多い傾向が続いている。

雇用人員の過不足感 BSI（過剰－不足）は▲43.7（前期比 3.0 増減）と低下した。「不足」と回答した割合は依然として約 4～5 割の高水準で推移しており、「過剰」と回答した割合は低下傾向にあり、今期はわずか 2.3%であった。業種別にみると、製造業が▲40.0（同 9.0 増減）と大きく低下する一方、非製造業は▲48.4（同 5.2 増）と上昇した。

自由コメント欄では「求人難はなかなか解消せず、現状維持がやっと。将来的に人手不足が心配。（出版・印刷）」、「人が定着しないので派遣会社への出費が増えた。（食料品）」など人材の確保、定着に苦慮する声が寄せられた。繊維工業と鉱業以外のすべて業種で BSI がマイナスとなっており、幅広い業種で人手が不足している。

（研究員 藤木 由江）



6. Data

十六景況判断指数 の推移

回答企業の業種別構成

業種	企業数	構成比(%)
製造業	120	56.3
食料品	7	3.3
繊維工業	4	1.9
衣服・その他の繊維製品	2	0.9
木材・木製品	6	2.8
家具・装備品	2	0.9
紙・紙加工品	6	2.8
出版・印刷	5	2.4
化学工業	5	2.4
窯業・土石製品	13	6.1
鉄鋼・非鉄金属	9	4.2
刃物・金属製品	9	4.2
一般機械器具	13	6.1
電気機械器具	5	2.4
輸送用機械器具	15	7.0
プラスチック・その他製造業	19	8.9
非製造業	93	43.7
鉱業	1	0.5
建設業	28	13.1
卸売業	34	16.0
小売業	8	3.8
運輸業	7	3.3
サービス業	15	7.0
合計	213	100.0

回答企業の資本金別・従業員規模別・地域別構成

資本金	企業数	構成比(%)
1,000万円未満	9	4.2
1,000万円以上～3,000万円未満	89	41.8
3,000万円以上～5,000万円未満	45	21.1
5,000万円以上～1億円未満	47	22.1
1億円以上	23	10.8
合計	213	100

従業員数	企業数	構成比(%)
10人未満	24	11.3
10人以上～50人未満	77	36.2
50人以上～100人未満	51	23.9
100人以上～300人未満	42	19.7
300人以上～500人未満	10	4.7
500人以上	9	4.2
合計	213	100

地域	企業数	構成比(%)
岐阜県	134	62.9
愛知県	79	37.1
合計	213	100

四半期	2020. 10～12	2021. 1～3	2021. 4～6	2021. 7～9	2021. 10～12	2022. 1～3	2022. 4～6	2022. 7～9	2022. 10～12	2023. 1～3	2023. 4～6	2023. 7～9	2023. 10～12	2024. 1～3	2024. 4～6	2024. 7～9	2024. 10～12	2025. 1～3	2025. 4 ～6予想
良くなった	12.0	23.4	42.7	27.6	31.5	20.9	24.3	22.2	20.6	23.4	28.1	27.0	39.2	28.6	20.7	20.6	25.1	22.1	15.6
横這い	31.1	36.1	33.4	50.0	42.2	46.1	40.7	42.3	40.6	39.5	44.7	45.1	42.2	47.4	53.3	57.6	51.6	50.7	54.7
悪くなった	56.9	40.5	23.9	22.4	26.3	33.0	35.0	35.5	38.8	37.1	27.2	27.9	18.6	24.0	26.0	21.8	23.3	27.2	29.7
十六景況判断指数	▲ 44.9	▲ 17.1	18.8	5.2	5.2	▲ 12.1	▲ 10.7	▲ 13.3	▲ 18.2	▲ 13.7	0.9	▲ 0.9	20.6	4.6	▲ 5.3	▲ 1.2	1.8	▲ 5.1	▲ 14.1